

◇ ニッセイ緑の財団現地踏査活動 ◇

糸紋別の森（北海道）

平成11年
植樹

- ・植栽したトドマツが順調に成長。
- ・森の中央を横断する作業道跡にはダケカンバ、ハンノキが密生し、林内にはホウノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、アオダモなどが侵入。



↑トドマツの成長が良い



↑侵入したダケカンバ

糸佐呂間の森（北海道）

平成18年
植樹

- ・廃道になった道道沿いに森があり、豪雨のため道路から目視による状況把握を実施。
- ・森の中央を走る尾根の西側はアカエゾマツが80%程度残存し、樹高8m前後に成長しているが、東側は西側に比べて残存率が低く成長も劣る。
- ・周辺からツルの侵入などの林況調査の結果に応じて今後の施業を実施。



↑尾根の西側



↑尾根の東側

糸足奇の森（北海道）

平成21年
植樹

- ・当初トドマツとミズナラを植栽したが、寒風害のためH26にグイマツに改植した森。
- ・グイマツは、成長は個体によって区々だが、非常に高い残存率で全体として草丈を脱して下刈を卒業した段階。
- ・周辺の森にはミズナラ、イタヤカエデなど生育している。



↑斜面上部のグイマツは1m前後



↑成長の良いグイマツ

糸標茶の森（北海道）

平成8年
植樹

- ・北側部分では、トドマツは全体にまばらな状態ではあるが成長は標準的。ミズナラの成長は区々（平均では直径10cm、樹高6-8m）。
- ・南側部分では、奥にトドマツがまとまって残存し、その手前に大きなギャップがあることを確認した。
- ・ギャップにはダケカンバ、ミズナラなどの侵入してきている。



↑ミズナラの状況



↑奥のトドマツと手前のギャップ

糸岩見の森（秋田県）

平成20年
植樹

- ・付近は県立公園に指定されていて、林道の両側に綺麗な森と溪流が楽しめる。
- ・ミズナラ、コナラは全体に拡がり、成長が良好。イタヤカエデ、スギも順調に生育している。
- ・植栽木の間にはホウノキ、ヤマモミジ、ヤナギなどが侵入。



↑ミズナラ植栽木と侵入したホウノキ



↑イタヤカエデの状況

糸雄勝の森（秋田県）

平成15・16年
植樹

- ・道路沿にある森。
- ・スギ、エンジュ、ミズナラは残存率が高く順調に、ブナとアカイタヤは所々にまとまって生育している。
- ・広葉樹のエリアの植栽木の間にはホウノキ、スギ、ミズナラなどの侵入木が多数みられる。



↑スギ



↑ブナ

糸仁別の森（秋田県）

平成5年
植樹

- ・森は草や灌木を掴まないで登れないほどの急傾斜。
- ・植栽したスギは、中央部の斜面下部と林道下側の区域で残存率がやや低い。
- ・下草やクワなどの低木の間からオオモミジ、ミズナラなど高木の若木が発生している。



↑スギの生育状況



↑林地は重層的に植生が被覆

糸湯沢の森（新潟県）

平成11年
植樹

- ・スギは残存率も高く生育も良好。歩道周辺に植栽されたミズナラとヤマザクラは残存率はあまり高くない。
- ・高木ではホウノキ、アオダモなど侵入し、低木ではタニウツギ、ガマズミなどが繁茂している。



↑植栽木のベニヤマザクラ



↑ホウノキなどの侵入木

糸苗場の森（新潟県）

平成14年
植樹

- ・スギの植栽木は順調に成長しているが、雪折れなどの被害木が散見され除伐時に処理する必要がある。
- ・ブナはほぼ植栽されたままの密度で成長しており、早急に植栽木を含めた除伐を実施していく。



↑植栽したスギ（奥の全景）



↑植栽したブナの状況（手前区域）

糸関川の森（新潟県）

平成7年
植樹

- ・送電線管理用の歩道が森の中を通過しているので森歩きが楽しめる森。
- ・スギは劣勢木や雪折等の被害木がわずかにみられるが、地際から2mで枝打ちされた美しい一斉人工林になっている。
- ・下層植生はアオダモ、ウツギ、シダなどが散在。



↑林内の歩道の状況



↑ケヤキ区域